

日本学術会議
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
海の学びカリキュラム小委員会(第25期・第3回)
議事要旨

日時 令和4年3月24日(木) 18:00～20:10

会場 ビデオ会議にて開催

出席 (小委員会委員) 日置 光久(連携会員)、氷見山 幸夫(連携会員)、小川 博久、小澤 鷹弥、川
真田 早苗、嵩倉 美帆、田中 隼人、辻 健、丹羽 淑博
(参考人) 青木 かがり、小川 展弘
(事務局) 小山 堯

議題

1)はじめに

・日置委員長より、本小委員会が成立した経緯についての説明とともに、今回の話題提供者である参考人の青木かがり先生と小川展弘先生の紹介をおこなった。

2)話題提供① 青木かがり「動物目線の海洋教育に向けて バイオロギングデータで学ぶ海洋動物の暮らしと人間活動との関連」

・海洋にあらわれるさまざまな問題を身近な問題として捉えるためにも、動物目線のデータを通して、親しみや共感を大切にしたいという気持ちを学んでほしいという願いから、バイオロギングデータ研究それ自体の説明と、その研究を活かしたアウトリーチ活動についての事例発表がなされた。さらに、研究と実践とを繋げられるようなプラットフォームの仕組みを考えていきたいという考えのもと、その一例として、2022年にそのデータの保存・解析・発信のできるHPを開設する旨の発言があった。

3)話題提供① 質疑応答

・話題提供①を受けて質疑応答をおこなった。
・バイオロギング研究それ自体について、研究データの活用方法、さらにはアウトリーチ活動にかかわって、社会教育施設や学校等においてどのような連携・実践が可能か、そして海洋生物と人間の共生等についても議論がなされた。

4)話題提供② 小川展弘『『大気海洋研究所 手作り3D模型』の御紹介～理科副教材化に向けた準備状況と今後について～』

・科学技術のより一層の発展のために研究者と社会との積極的な交流、ならびに大気海洋研究所の研究内容を通して海洋生物への興味・関心をもってもらうことを目的に、アサリの3D模型キットの作成を試みた。そのキットの開発に至るまでの背景と開発の経緯、運用(教育現場との連携)の事例、さらに

は、オンラインやハイブリッド等の多様な手段を含む効果的な活用方法についての詳細な発表がなされた。

5) 話題提供② 質疑応答

- ・話題提供②を受けて質疑応答をおこなった。
- ・アサリの 3D 模型キット自体のさらなる改善策や、学校教育だけに限らないよりよい活用の仕方、そして社会教育施設との連携・実践、さらには STEM 教育への発展性等についても議論がなされた。

6) その他

- ・氷見山委員より、6 月 5 日(日)開催の日本学術会議主催・学術フォーラム「持続可能な社会を創り担うための教育と学習のチャレンジ」の企画案についての説明があった。
- ・氷見山委員より、4 月 20 日(水)に分科会を開催し、学術フォーラムの準備打ち合わせを行うことについて説明があった。小委員会委員にも当分科会のオブザーバー参加を募る方向でまとまった。
- ・次回の小委員会の実施日時については、改めて、幹事の嵩倉委員よりメンバーに連絡される。